

内郷村報の

六大使命

- 一、政策推進を期して、村力充実を期す。
- 二、村内公私各機関の活動状況を指導し、併せて其協力を計り、協和進歩の實現を期す。
- 三、本村社会事業の徹底を期す。
- 四、村内の善美行を奨励し、且之を獎勵す。
- 五、本村と本村外との及本村関係者の聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

内郷村報

天一人則  
ニ從人則  
ルベシ

新年の感懐

波風をわたる天命の勇々しきも  
なごみてあれや四方の海々  
元旦 拜勅題恭賦 (賀状中より)  
平市 七十五 廣木 謙吉  
山田 七十一 奥田 元堂

紀元二千六百年 一 幹皇統 實紳々  
乾坤正改期何事 達成 興亞策 安全  
日出 祥 烟 彩 露 中 (二)  
興亞 濟 民 是 大 業 水 村 山 廓 入 春 風  
大 業 宜 期 一 致 功

福島縣協和會

内地外地の協和事業

福島縣協和會 評議員 大内民恵

最近我輩城炭田に於て、國策遂行の爲に、多數の半島同胞を迎へ、其成績の良好なるに鑑み、今後引き続き其増員を計劃しつゝあり將來當地方人と、半島同胞との間に、密接なる關係を生じ、其親善と協和とを、圖らなければならぬことゝなつた矢先き、予は、突如福島縣協和會長、橋本縣知事より、肩書の様な委嘱をうけると同時に、其關係筋より、其會員の教化問題に

る外地同胞を保護善導し、其生活の安定を圖ると共に内地同胞の相愛の情誼を促進し、國民議和の實を擧ぐの爲、其目的であつて、之を達成する爲に、國民精神の作興、協和事業の趣旨の普及徹底、矯風教化、保護救濟、福祉増進、協和事業に關する調査研究、其他必要なる事項等の事業を行

謹賀新年

- 七年會
- |          |           |       |       |         |         |           |           |           |      |
|----------|-----------|-------|-------|---------|---------|-----------|-----------|-----------|------|
| 大内民恵     | 同 賢 二     | 同 由 清 | 同 幡 み | 同 卷 哲 郎 | 同 石 幸 助 | 同 圓 谷 一 郎 | 同 外 内 一 治 | 同 大 内 一 治 | 清水山莊 |
| 杉田本宅 留守居 | 甲 斐 根 丑 治 |       |       |         |         |           |           |           |      |

從業員大募集!

人 員 貳千名 (經驗が無くても仕事が出来ます)

内 探炭夫 一七〇〇名 坑内機械夫 一〇〇〇名  
支柱夫 一五〇〇名 坑内工作夫 五〇〇名  
坑内運搬夫 一〇〇〇名

年齢 滿十六歳以上五十歳まで (身体壯健のもの)

賃 賃費會社にて負擔いたします  
一日圓以上五圓(請負制)にて就業時間八時間乃至拾時間  
世帯持には住宅を無料で貸與します

住 獨身者のために寄宿舎あり(食費寝具共一日五十錢)  
就業場所 緩坑、住吉坑、町田坑(常磐線緩坑下車)長倉坑湯本驛下車  
希望者は最寄職業紹介所か町村役場又は直接會社に御申込下さい!

東北第一の大炭礦!!  
磐城炭礦株式會社礦業所  
(福島縣石城郡内郷村大字綴)

本會發行は内郷村報の事業に於て、其の性質は公益に關する種々なるものなり

本會定価 一部五錢 少年部二錢 共計四錢  
發行所 福島縣石城郡内郷村大字綴 第一  
編輯者 大内民恵  
福島縣平市 丁目三九  
印刷所 平 活 版 所

協和會の目的及機構の大要は、大略以上の通りであつて、其目的を達成するに於て、其當局者及會員や、一般縣人が、三位一體となつて、上述したる其目的と、事業の性質とを、よく認識して、我國民精神、天地の公道を、其信條として、内外相愛、國民議和の實を擧げる事に、努力すべきであると考へられるのである。

予は、其事業の完成を期する一助にもと、我内郷村報に「協和月報」と題する二頁大の附録を添へ、全協和會員に之を配付すると共に、其等會員の郷里にも之を發送して、内外の精神的諧和協調を圖ることとしやうと、目下其準備中であるのである。

檀原 饌米 繼送

輝く皇紀二千六百年に際し、赤誠の一端を顯現する目的を以て、全國の在郷軍人分會を動員した、檀原神宮饌米奉獻迎送は、快晴に恵まれた一月四日無事終了、歴史的な聖業を果し得た、分會全員は、皇國臣民としての感激を新たにされた。

當日の實現を左に
一、午前九時全員集合。二、午前十時村社八坂神社に於て修祓。三、午前十一時三十分警城炭礦分會より饌米受領。四、午前十一時半市聯合分會よりの遞送米出迎の爲め、鈴木參事以下二十名長橋迄出向。五、午後〇時三十分全員家政女學校々庭に整列して、平市聯合分會より遞送米を引續受領。特に平市石城郡兩聯合分會長立會。六、午後一時湯本町分會へ向け、分會旗を先頭に隊伍堂々出發。途中堀坂迄出迎の湯本分會と合流、湯本町温泉神社境内に至り、午後二時引續了す。

此日此光景を見んものさ、沿道に押寄せた群衆は多数に上り、中には饌米を奉投する人さへあつた而して早朝より、此行事に對して協賛の至誠を致された、國防婦人會員達の勞を多として、關係者一同感謝の意を表した。

元且八坂神社に於て、出征兵の武運長久の祈願をなし其御守、兒童の作品、團員の慰問文を入れた慰問袋を、學區内の出征兵に、夫々發送した。

〔京都府 經濟部長 外山福男氏の書簡〕

拜復
内郷村報毎號御惠送に預り本年歲末此程落手仕候、今日の農村の實狀を具に洞察する時、肥料を始め、農機具等に至る迄、實に重大問題の累積に有之、吾等の責任重大を痛感仕候、殊に錦地は、炭礦地方のこゝ、從業員充足のみにて、隨分苦勞され居る様相見え候、貴下が村等として細々注意され、御清榮にて、那家の爲御奮闘の程願上候、
十二月三十日 福男

防犯 映畫會

十二月二十二日午後一時より、宮第二劇場に開催。平署よりは署長代理以下八名、村内駐在の巡查六名、席、瓜生部長の開會の挨拶、菊地刑事部長の防犯に關する、署長代理の防犯と經濟に關する講演後、映寫を行ひ、四時半解散、其聴衆一千余名の盛會であつた。

方 委員例會

一月十一日午前十時より村會議事堂に開會、沼田村長を始め、赤土、高原、兩山崎、安田、福羽、佐藤、金澤、松村、田口の十委員出席、舊歲末給與の件につき、給與の範圍、給與額、決定し、新年に入りて初會議なるを以て、簡素なる午餐を共にし、和氣霽々裡に時を移し散會した。

磐炭記事抄録

十二月十五日より、同十

願成寺災上

一月十三日午前十時三十分頃、溶解中のコールドより發火、本堂庫裡納骨堂等を焼失、正午頃鎮火。其詳細は次號に報道する。

納稅表彰式

舊臘納稅週間の最終十二月十七日、村議事堂に於て其表彰式を舉行、五十二納稅組合が、表彰状と金一封を授與された。當日の來賓は、平稅務署長、縣稅務出張所長、村議、學校長其他多數であつた。

坪刈品評會

十二月十七日納稅表彰式に引きつゞき、昭和十四年度水稻增收坪刈品評會を舉行した。其受賞者は、一等賞三人、二等賞六人、三等賞十二人、四等賞十七人、計三十四人であつた。

本紙贊助金寄贈芳名

- 東京 細山 金藏
白水 壽炭 礦藏
東京 菊地 平之助
山本 山本 武雄
三浦 三浦 三郎
小南 小南 二郎
山口 山口 三郎
内郷 内郷 喜作
内郷 内郷 義郎
北海道 近藤 義正
本宮 本宮 孝治
樺太 渡邊 雄一
東京 齊藤 祐一
東京 齊藤 祐一
高坂 高坂 智清
平野 平野 智清
布哇 布哇 智清
金坂 金坂 智清
内郷 内郷 秀賢
宮下 宮下 秀賢

教育制度改革概論

矢野 恒太郎 大内民憲著
(四六版二二頁 定價五十錢 郵税六錢)

村會 記錄

十二月十八日村會を開き決議したる事項。
陸軍歩兵伍長 鈴木 利
五圓、平市佛教同志會代表
遠藤心光。金參圓、北支派
である。

我國教育學界の權威

前京大總長小西重直博士
吾を寄せて曰く、多年ノ御體下實地ノ御試練ニ基ク眞實國ノ大精神ヲ拜味仕リ不感敬慕ニ打メ申儀云々。

日本評論社

發行所 日本評論社
東京 東京三丁目
取次所 内郷村報社

錢、雜費。計金二二七圓一五錢。
差引殘金二五五圓八七錢
後期繰越金。以上

學校の... 同校児童並に同學區女子青年團員は、蝗をとりて得た金拾貳圓を以て、一月

菊地刑事部長の防犯に關する、署長代理の防犯と經濟に關する講演後、映寫を行ひ、四時半解散、其聽衆一

時昭和學院の生徒諸君にも宜しく御禮言相煩度御願申上候先は右簡單ながら御挨拶申上度如斯御座候 勿々

發行所 日本評論社 東京三橋三丁目 東大所 内郷村報社

### 教育制度改革概論

矢野 恒太郎 大内民憲著 (四六版二二頁 定價五十錢 郵税六錢)

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實際とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の贊同校學に達せらる。味仕り不慮感敬二打メ申儀云々。

我國教育學界の權威 前京大總長小西重直博士 書を寄せて曰く、多年御禮言下實地ノ御試練ニ基ク眞學運國ノ大精神ヲ拜味仕り不慮感敬二打メ申儀云々。

### 村會 記 録

十二月十八日村會を開き決議したる事項。

寄附採納の件

一、宅地二十一坪七合八勺

一、原野一畝十歩

大字綴 廣木春之亮

一、畑二十六坪八合

大字高坂 四家又一

右國道より三社場橋に至る道路敷地として寄附に付採納するものとす。

議案第二號 昭和十四年度内郷村歳入歳出追加豫算

「歳入」村税 鑛區稅附稅 三八六二圓。

「歳出經常部」三、役場費 區長報酬、一五〇圓。電燈費、五四圓。一五、救助費 宮羅災者救助費、四五〇圓

三〇、財産費、駐在所修繕費、一〇七圓。計七六一圓

「歳出臨時部」

一、補助費、警防分團詰所建設補助、二八二二圓。火防池新設補助、二五圓。五

雜支出、体力章檢定費、二五四圓。計三一〇一圓。

歳出合計、三八六二圓。

### 無言の凱旋

陸軍歩兵伍長 高橋清松

陸軍工兵伍長 大越山

宮火 見舞金(其二)

災の 見舞金(其二)

總人員千八百七十七人

合計金千五拾圓四拾錢

七五圓三〇錢、一〇四人。

八〇錢、一六一人。小島、

錢、四九人。御厩、六三圓

二人。御臺境、四三圓五〇

人。高坂、一六六圓、二二

下綴、六五圓五〇錢、三九

二七二圓九〇錢、四三九人

白水、九〇圓四五錢。一

一三人。宮、一九九圓四〇

錢、五九二人。内町、七三

圓五五錢、一五八人。上綴

二七二圓九〇錢、四三九人

下綴、六五圓五〇錢、三九

### 銃後 寄附狀況

時局下に於ける銃後奉公會の活動如何は、第一線勇士の士氣に影響すること甚大なるは勿論、直接勇士の遺家族に對して、慰藉に援助に努むべきは、銃後國民の重大責務であるに鑑み、本村の同會に於ては、舊嶽改組以來第一回の資金募集をしたるに、左の如き良成績を見た。

白水、九〇圓四五錢。一

一三人。宮、一九九圓四〇

錢、五九二人。内町、七三

圓五五錢、一五八人。上綴

二七二圓九〇錢、四三九人

下綴、六五圓五〇錢、三九

二七二圓九〇錢、四三九人

白水、九〇圓四五錢。一

一三人。宮、一九九圓四〇

錢、五九二人。内町、七三

圓五五錢、一五八人。上綴

二七二圓九〇錢、四三九人

下綴、六五圓五〇錢、三九

二七二圓九〇錢、四三九人

白水、九〇圓四五錢。一

一三人。宮、一九九圓四〇

錢、五九二人。内町、七三

圓五五錢、一五八人。上綴

二七二圓九〇錢、四三九人

下綴、六五圓五〇錢、三九

二七二圓九〇錢、四三九人

白水、九〇圓四五錢。一

一三人。宮、一九九圓四〇

錢、五九二人。内町、七三

圓五五錢、一五八人。上綴

二七二圓九〇錢、四三九人

下綴、六五圓五〇錢、三九

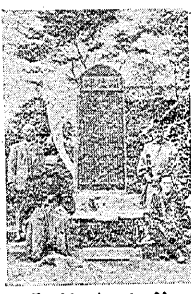
二七二圓九〇錢、四三九人

白水、九〇圓四五錢。一

一三人。宮、一九九圓四〇

### 鈴木吉 頌 德 碑

記者は、舊嶽内町第二小學校前の道を通つて、こゝに掲載した寫眞のやうな、眞新らしい立派な碑石を發見、之はと驚いて一讀したるに、其處は鈴木吉松翁の隱宅の庭で、其主馬目太平治氏が建立せられた、翁の頌德碑であつたのである。翁は弱冠十一歳、先代太平氏に認められ同家に奉公、爾來六十余年間、留吉氏、太吉氏、當主太平治氏の四代に歷仕し、醸造用水、植林開拓、釀酒販賣等に、孜孜屹々、忠勤を抽んじ、尙擧鏢として奉仕に餘念なき、其功勞を多として、之を建立(昭和十四年舊三月)したものであつたのである。



鈴木吉 頌 德 碑

### 齋藤氏的美譽

警炭本社會計課長齋藤祐治氏は、此程村銃後奉公會、金參拾圓の寄附して、其特志を感謝されて居る。

### 會務報告

高坂支部

一、事業經過。

三月、女兒教養の爲に、上巳節の雛段一式寄贈。四月、新入學兒童に計數用具一式給與。五月、家計困難にして修學旅行に参加不能の六年生に、其費用を援助して同行せしむ。七月、尋常科兒童全部に、夏季運動會に特別賞品補助。十二月、宮火災罹災兒童に見舞金贈與。其他貧困兒童に對し、教科書並に學用品給與通學事項に援助。

一、會計報告。

(收入之部) 二九三圓五錢

會費。三圓六二錢、利子。

一九六圓三五錢、前年度繰越金。計金四九三圓二錢。

(支出之部) 二三一圓三五錢、各種寄與金。五圓八〇

錢、雜費。計金二二七圓一

五錢。

差引殘金二五五圓八七錢

後期繰越金。以上

困みに其役員氏名は

顧問、大内民憲。會長、沼田濱之助。支部長、山崎辰亥。副支部長、志賀保治。庶務會計、高木信吉。幹事長、志村正豐。鈴木正之、鈴木森治、山家榮三、下河邊佐富。外幹事若干名。

### 慰問 募集割當

各區長及び愛國婦人會協力の下に、夫々募集を開始した。其割當は左の通りである。此際全村舉つて、好成績を挙げたいものと祈つて居る。

磐城炭礦、三六三。白水

八三。宮、一六七。内町、

三六。上綴、八〇。下綴、

二二。高坂、三六。御厩、

三六。御臺境、一五。小島

二五。計八六三個。以上

### 金買上げ

十二月二十日、金を買上

げる爲、農工銀行員が、本

村役場へ出張したるに、賣

却申出人五十七名、總點數

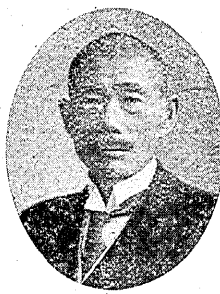
百三十六点で、時計側及指

輪が最も多かつた由。

大内齊茂君追悼の辞

大内民恵

上京した予を、君は心から歓迎してくれ、時しも正午、何を指いしても晝飯をよ、予は簡単に蕎麥でもさつて、いふたにもか、はらず、自家用車で附近第一流の料亭(名は忘れがた)に案内、常得意な馳走を振舞はれ、それより其車で遠く板橋の工場に至り、親しく其總てを説明し、此私邸に引きかへして、又もや山海の珍味を以て晚餐を共にしてくれたのであつた



君茂齊内大

人間一生の價値は、棺の蓋をあふて始めて定まるさといふが、予は今日迄長い間、君さはいろくの問題に就いて、腹藏なく語りあつたのであるが、人生観さか、宗教観さかに就いては、何等話があつたことばなかつたので、其點はさうであつたかき、夫人に何つたところ、君は生前、人道上から割り出して、なす、べき事、なすべからざる事は、即時即決主義で、其心境は一切空、いづ何時往生しても、何等思ひ残すなさいといふ、光風露月の生活であつて、遺言を見るべきものは、いさゝかもなく、且此度床上の人となつて、身邊に彌集し來れる、一族郎黨の看護や奉仕に對しては、心から満足し、

感謝し、臨終の直前、昏睡状態から覺醒した瞬間、二階に休息して居つた、去治醫の××博士を、特に枕邊に請じ、「ながくお世話様になりました」と、しかも明瞭に、厚く御禮を述べられて、眠るが如くに、大往生を遂げられたこと、いふことを聞いて、新井石禪大禪師の御往生も、其軌を一にし、其人生觀、宗教觀を、如實に我等に暗示したものであつたことを知つて、予は今更ながら、敬仰感激の念を深うして居るのである。

君の御一生は、眞に精勵奮闘の生活であり、報恩感謝の日暮であり、而して大悟徹底した大往生であつた。君は精勵奮闘して、今日の事業を大成し、寸毫の恩恵をうけた人々に對しても、必ず感謝し報恩し、其進くや一切空！誠に立派なものであつた。

別家して新たに大内一家を立て其椽家となつた、吉祥寺様が大成院賢徳茂秀清居士と御戒名を下さつたが、大成院賢徳といひ、茂秀清居士といひ、君が一生を顯現して、餘蘊なしといふべきである。

一本のマツチで 四人が喫煙 回顧すれば二十有余年の昔である。本縣中通りに、安達先生(假名)といふ、眞に勤儉力行のまる小学校の校長さんがあつた。

予は、幸に關係者御一同の、御贊同を得らるれば、以上の感激と追憶を、永久に肝銘して、我等の一代は勿論、之を子孫に傳へて其修養に資せしめん爲に、各自が讀仰追憶の一文宛を草し、「大成院追悼録」を編纂して、君が靈前に供ふると共に、一同の家訓といふべきである。

内郷村報の 六大使命

- 一、政策推進を組織して、村力充實主義を標榜す
二、村内公私各機關の活動状況を報導し、併せて其活動を計り、進取和進歩の實現を期す。
三、本村社會事業の徹底を期す。

- 四、村内の善美行を表彰し、且之を獎勵す。
五、本村と本村外及び本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
六、尙餘力を以て、國民善導に當る

本報發行は六内一家の事業にして、其の利益は皆に歸する事と爲すを標榜するものなり

協和會の目的及機構の大要は、大略以上の通りである。其當局者及會員や、一

内郷村報

天 從 人 順 則

其生活の安定を圖ると共に内地同胞の相愛の情誼を促進し、國民善導の實を擧ぐ

稀を越え、巨萬の富を擁し、悠々たる生活をして居る事の事である (××生)

發行所 内郷村報社 印刷所 平活版所